

住職のひとりごと

*** 新型コロナウイルスの感染拡大**が続いています。マスクをつけての生活にはすっかり慣れましたが当初の緊張感も薄れ、最近では身内や知り合いの中からも感染者が発生しましたが、そういうニュースにもあまり驚かなくなりました。重症化率が少ないという、ある種の安心感もあるのかもしれませんが、でも1人に陽性反応がでると、周りの人たちに行動制限が課せられることになります。

改めて自分の置かれた立場を意識し、注意怠りなく過ごしたいと思っております。



*** 8月16日の「川施餓鬼」。** ありがたいことに「ドンダリの会」の間たちが自主的に呼びかけて、1週

お彼岸のお経廻りの予定

- 9月2日 稲子～芝川・大久保
- 3日(土) 万野原新田・大岩・小泉
- 4日(日) 富士市 5日 精進川～下条
- 6日 下条、青木
- 7～8日 青木～馬見塚～外神・宮原・～富士見ヶ丘
- 9日 大中里・泉町・穂波町・淀師・中島町・淀川町・貴船町・
- 10日(土) 三島(富士) 清水・静岡・由比～柚野 他希望者
- 11日(日) 由比、内房、大久保、～ 柚野 他希望者
- 12日 北山・上井出・山宮・粟倉・舟久保町・村山 13日 宮町・西町・大宮・豊町・野中・星山・田中町・源道寺～ 柚野 14日～ 柚野

*** 日付が変わることがあります。変更等希望する方、ご連絡ください。**

間前に竹を伐り「タイムツ」を製作してくれました。おかげで規模は縮小したものの今年も伝統の灯をつなぐことができました。その直前に行われた「施餓鬼法要」も今年で3年目、餓鬼界の精霊にお経とともに食べ物・飲み物を供養する行事ですが、御玉前に供えた食べ物・飲み物はすべて大型ミキサーで粉砕し液状にしたものをお経とともに川に流します。祭壇に使われた竹、お札、卒塔婆などもお焚き上げし、その灰も一緒に。本堂の片づけとともに翌日の1日仕事です。

* 朝参詣へのお誘い

「寺葬」を紹介しましたが、先日通夜の後本堂に泊られたご家族より「朝のお勤めに感動しました」と言っていたいただきました。興徳寺の「朝勤」は365日変わらず5時20分から約50分間です。普段聞くことのない早いテンポのお経を体験し一緒にお題目を唱えてみませんか。本堂の戸は開いているので法要中でも自由にどうぞ。

* 彼岸花の季節

今年の彼岸花、9月20日頃から1週間くらいかと思っております。

タイゼン・ケイタイ ; 090-2180-8591



白の彼岸花、咲き始めました

混乱を避ける為、上の駐車場は閉鎖しますが、お檀家さん、墓参の方につきましてはどうぞ今まで通り利用してください。混雑でご迷惑をお

かけすることもあるかも知れませんが、お誘いあわせの上、彼岸花を楽しんでいただけたらと思います。*** 彼岸花開花の前に一斉に草刈りを行います。**8月末、9月3日まで、ご協力できる方はお願い致します。*** 11月に実施を予定しておりました「バス旅行」は今年も中止とします。**楽しみにしていた方には申し訳ございませんが皆で大きな声で笑える日を待ちましょう。
*** 『彼岸の法要』の卒塔婆のお申込みはお早目にお願致します。**『お会式』も予定通りです。お檀家さんには「案内状」にて改めてお知らせいたします。
*** 今回のイラストは鈴木ゆかりさんでした。**
【泰然日記】

興徳寺便り

第137号
(復刊第62号)
令和4秋彼岸

衰えたりといえど まだ役目があると信じ

死んでたまるか
老いと衰えは止められない
老いと衰えは誰にも助けられるものではなく
自分で受け止めなくてはならない
ものだと思いついた
災害ならぬ老残に
打ちのめりそうになりながらも
まだ私は倒れるワケにはいかないのだ
被災して多くのものを失ったが逆にたくさんのお会いがあり
目に見えない沢山の励ましも頂いた
衰えたりと云えども
まだ役目があると信じ
死んでたまるかと心に誓う

詩集「生きてやろうじゃないの」より

最近、友人に紹介され「生きてやろうじゃないの」という詩集を手に入れました。作者・武澤順子さんは昭和8年旧満州旅順生まれ。昭和21年、終戦で引き揚げ福島県相馬郡へ。結婚後一男一女をもうけ、主婦業の傍らヤクルト販売店員として39年間勤務。夫を事故で亡くした3か月後、東日本大震災で被災、家は床上浸水、解体。震災からの再生を綴った「震災日記」が平成24年「生きてやろうじゃないの」79歳・母と息子の震災日記」として上梓、当詩集はその続編として平成29年に発刊されたものです。



平凡な主婦が夫を失った直後に大震災で家もなにもかもを失い、そこから懸命に生きる姿がとつとつと綴られており、胸を打たれます。その中から老いと衰えについて書かれたこの一編を選びました。誰もが経験することですが、歳を重ねるにつれ今までできていた当たり前のことができなくなってきました。重いものを持つこと、長い時間働くこと、暗算で計算すること、じっくり本を読む事、暑い日の草刈り「今日はなぜかやる気がでない」・・・情けないと思わず、今を認めて前を向く!

妙法蓮華経序品第一の一節
汝、一心に精進し当に放逸を離るべし——ひたすら努力なさい、決して怠けてはいけません・・・意味としてはそういうことですが、ほどほどに出来る努力をしない、とお釈迦様は教えてくれています。
役目を果たしたら仏さまが迎えてくれます。順子さんは役目を果たし切り令和3年10月逝去、行年88歳でした。



「施餓鬼会」
&
「川施餓鬼」



今年も「川施餓鬼」が実施できたこと、何よりでした。

8月16日「施餓鬼会」。新型コロナウイルスの感染防止対策を施しながら、30名の参列者とともに供養させていただきました。

その後、御宝前の灯を小学生の代表に渡し、そこから各自のタイマツに点火、行列を作りお題目を唱えながら芝川に運び、焚き上げました。



【写真提供 高瀬幹雄】
スタッフの皆さま、ありがとうございました。

暮れまでの予定

9月23日(金) ^{ひかんえ}彼岸会 10:00~ 法要。10:40~法話

恒例の秋のお彼岸の法要です。新型コロナウイルス感染対策として参詣者にはマスクの着用、入り口でのアルコール消毒、座席を離す、換気の徹底等できる限りの対策は施します。お経のいっぱいあがった卒塔婆をお墓に建てましょう。(当日参詣できない方は、式後本堂から自由にお持ち帰りください。本堂は日中は開いております) お塔婆のお申し込みはお早めに(2千円です)。

9月25日(日) 15:00~写経 16:00 ^{しょうだいぎょう}「唱題行」(毎月第4日曜日)

10月23日(日) 15:00~写経 16:00 ^{しょうだいぎょう}「唱題行」(毎月第4日曜日)

11月13日(日) ^{えしき}お会式 10:00~ 法要~法話

「お会式」は予定通り執り行います。ただし、具体的な内容は1ヶ月前に決定し、お檀家さんには「案内状」にて連絡いたします。法話に代えて今回は講談師・神田ぐれいてるさん をお願いしました。ご期待下さい。

11月27日(日) 15:00~写経 16:00 ^{しょうだいぎょう}「唱題行」(毎月第4日曜日)

寺葬の勧め

お寺の本堂で営まれる葬儀を「寺葬(てらそう)」と呼びます。

近年、通夜・葬儀の規模が縮小の傾向にあるようですが、こんな時こそお寺でお葬式を。



落ち着いた環境の中、法要も「宗定日蓮宗法要式」に則った伝統的な形で。経費もずっと低く抑えられます。

お通夜の晩は泊っていただく事も可能です。身内や親しい方が故人を偲びながら本堂で過ごす夜はまた意義深いものかと思ひます。



⇒ 参列者全員でお棺にお花を手向け最後のお別れ。